

平成29年度 自己評価書

学校名	和歌山市立野崎西小学校
校長氏名	辻中 宏誠
作成日	平成30年3月2日

1 教育目標

自ら学ぶ意欲と強い信念を持ち、社会の変化に主体的に対応してたくましく生きる心豊かな児童の育成に努める。

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> 多くの方が随時来校し、授業等の参観等をしていただけるよう、保護者や地域へ積極的に情報発信を行う。 地域の教育資源や人材を発掘し、学校教育活動に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育の充実を図り、学校教育活動全体を通して、生命や人権を大切に教育に取り組む。 特別支援教育を柱とし、一人一人を大切に教育を推進する。 体験的な活動を多く取り入れ、心豊かな子どもを育てる。 全職員で全児童を育てる、組織としての取り組みを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の習得を徹底し、基礎学力の向上に努める。 児童一人一人の実態を把握し、子どもが主体的に参加する授業を目指す。 保護者と連携を図り、家庭学習の時間を確保させる。

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> 「学校だより」を毎月配布し、情報発信を行った。 作品展を通し、公民館と交流を図った。 地域と連携して「交通安全大会」を成功させた。 避難訓練や清掃活動を通し、関係機関や育友会、地域自治会と連携できた。 教育活動を広報し、地域の方々から学校への意見を頂くことができた。 和歌山大学から学生ボランティアを2人要請し、体力向上や学力向上、特別支援活動に活用することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育の資料を精選し、体験活動と道徳の授業を計画的、発展的に行った。 児童会活動を中心に地域と連携しながらボランティア活動に取り組んだ。 出前授業を計画的に活用し、各職業における苦労や達成感を身近なものにすることができた。 休憩時間や放課後においても児童と活動をとる機会を持ち、全職員で全児童を育てる学校運営を組織的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育科だけではなく、国語・算数の研究授業を通して、積極的に研修を行ってきた。また、児童の学力の実態を把握し、全教職員が共通理解した上で学力向上に取り組んできた。 学校全体で和歌山の授業基礎・基本3か条の定着を図り、授業形態を確立させた。 保護者と連携し、基本的生活習慣の確立や自主学習の定着に取り組んだ。
----------	---	---	--

取組の結果と課題【G】	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域の方から頂いたご意見を謙虚に受け止めて、学校改革に活かしていく。 学年に応じたゲストティチャーを要請し、計画的に活用する必要がある。 避難訓練、公園の清掃活動、公民館と連携した作品展示会など、関係機関や地域と連携した行事を毎年続けることで、より充実した活動にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを毎学期実施し、小さな出来事でも早期発見し、指導をすることができた。また、定期的に生活指導部会を開催し、情報の共有を図ることができた。来年度もきめの細かい指導ができるよう、アンテナを高くし、いじめの防止に努めたい。 毎学期「いじめ防止」の取り組みを「学校便り特別号」で保護者・地域の方々に知らせ、情報の共有を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度からの取り組みで、全国学力テストでは、国語Aにおいては平均を高く上回った。今後も全職員で問題・課題を分析し、学習時に考えを書かせる時間を確保する重要性を再確認した。 うちどくの時間や自主学習を定着させ、家庭での学習習慣づけを啓発し、模範ノートを提示しながら、根気強く保護者への協力を呼びかけていく必要がある。
-------------	--	--	--

改善方法【A】 次年度に向けての	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の学校生活をより多くの方々に見ていただけるよう、学校学年行事を計画し、広報する。 HP更新や学校便りにより一層力を入れて、多くの学校関係者の方々に子どもたちの様子を知っていただけるよう情報発信を行う。 図書ボランティアなど地域の人材を有効に活かし、地域との連携をさらに深める。 和歌山大学への避難訓練を毎年見直ししながら、さらに関係機関や地域との連携を強化するとともに、一人でも避難できる心構えを育成していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いじめ防止基本マニュアル」に基づき、全教職員が事実を共有して共通認識の下、組織として対応する。 規範意識を高めるために、教育活動全体を通して道徳教育や人権教育を充実させる。 情報モラル教育を、関係機関の協力を得ながら学年に応じて計画的・継続的に実施する。 「いじめアンケート」や日頃の細やかな観察を通して、よりアンテナを高くして情報を収集し、早期発見に心掛け、保護者との連絡を密にし、学校と家庭の連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価問題を中心に実施し、基礎・基本の定着を徹底する。 学力・体力向上委員会を中心に、具体的な手立てを決め、学校が一丸となって共通理解のもとに取組を進める。 国語、算数主任が中心となり、計画的に公開授業や研究協議の時間を設け、個々の授業力向上に取り組む。 自主学習の定着を目指し、家庭と協力しながら家庭学習時間の確保に、積極的に取り組んでいく。
---------------------	--	--	--

3 その他の課題

<ul style="list-style-type: none"> 毎年保護者アンケートより、老朽箇所の改善を求める声が多く寄せられている。トイレの改修を中心に、一つずつ改善していきたい。学校でできる修繕作業は、校務員を中心に全職員で取り組んでいる。他の項目については優先順位をつけて市に要請しながら環境整備を進めている。 体育科の研究授業を足掛かりとして、国語や算数においても研修を深め、一人一人の教職員の授業力向上を目指し、学校全体で学力向上に向けての取り組みを進めていく。
--